

やすだ のぼる  
**安田 登**  
 能楽師（下掛宝生流：ワキ方）  
 寺子屋 講師 （阿弥陀寺）  
 こどもおばけ合宿 講師 //

主著に『論語』『あわいの時代』『あわいの時代の『論語』ヒューマン2.0』  
 『能 650年続いた仕掛けとは』他多数。

# こままたとき 親鸞聖人の 鳥



イラスト 中川 学

## やっぱり易行が好き

魅力、仏教のユニークさはどのあたりにあると思うか」という質問にこたえるものでした。

その対談の前に動画の撮影がありました。「仏教の」

浄土真宗西本願寺派の釈徹宗先生と対談をさせていただきました。機会がありました。積先生は武蔵野大

今回は、その話のことから始めたいと思います。仏教のユニークさを考えるためにキリスト教と比較をしてみました。

ふたつの宗教を比べると、仏教は「動詞の宗教」、キリスト教は「名詞の宗教」ということができるのではないのでしょうか。

▼動詞の仏教  
 仏教が目指すのは、たとえば「成仏」や「往生」です。成仏するとか、往生するとうような「動詞」といいます。

▼浄土は修行の場  
 こう書くと、阿弥陀様を信じることは、キリス

「成仏」という言葉は、「仏に成る」で、仏様になることです。インドの言葉であるサンスクリット語で「仏」は「ブツダ」。そしてブツダとは「目覚める」とか「気づく」という意味です。朝目覚めることも「ブツダ」です。では、何に目覚めるかというところの中に苦しみなんでないんだよ」ということに目覚める、それが成仏です。

▼名詞のキリスト教  
 それに対して、キリスト教というのは「名詞」の宗教です。神様やイエス様という「名詞」を信じ、それに従っていきます。神様やイエス様を信じて、最後の審判の日には救ってくださる、そう信じて、ただ従う。仏教のように、自分が神様やイエス様になろうなんて動詞的なこととは思わない。

ト教が神様を信じるのに似てるような気がします。「南無阿弥陀仏」と唱えれば、阿弥陀様が浄土に連れて行ってくださる。似ていますね。

でも、これがちよつと違うのです。お経には阿弥陀様が連れて行ってくださる浄土の素晴らしさが書かれますし、浄土を「極楽」というくらいに、とても「楽」で「美しく」、そして「気持ちのよい」ところ、そこに行ったら一日中スーパージョージョーに感じる感じが「なんにもしなくてもいいよね」と思っている方が多いと思うのですが、残念ながらそれ、違います。私たちは浄土に往生する、すなわち「往って生きる」。で、そこで何を

「往生浄土の真実の教えでは、この世において阿弥陀仏の本願を信じ、浄土に往生してさとりを開くのであると法然上人から教えていただきまし」と、今は亡き親鸞聖人のお言葉にはございました（釈徹宗訳）。

すごい！  
 そのための修行をする場が浄土です。

さとりを開けば成仏して、仏にブツダになる。成仏すると、私たちは阿弥陀様と同行になるのです。おそれ多いですが、成仏の「仏」は「如来」です。阿弥陀様やお釈迦様は「如来」、それに対して観音様やお地蔵様は「菩薩」。菩薩は如来になるための修行中の人たちなので、私たちが成仏すると観音様やお地蔵様より上の位の如来になってしまう。

親鸞聖人のお弟子の唯円さんが書かれた『歎異抄』には次のように書かれています。

「往生浄土の真実の教えでは、この世において阿弥陀仏の本願を信じ、浄土に往生してさとりを開くのであると法然上人から教えていただきまし」と、今は亡き親鸞聖人のお言葉にはございました（釈徹宗訳）。

阿弥陀様は、誰でも浄土に連れて行ってあげるよ。そうすると、誰でも最後には仏(ブツダ)になれるよといひます。

しかし、イエス様やキリスト教の神様は、「あなたもイエス様になれる」とか、「あなたも神様になれる」とは絶対に言いません。

どんなに修行をしても、戒律を守っても、あくまでも人間は神様より下、神の従者です。

それに対して仏教といふのは、その通りやうにいけば、誰でも目覚めることができる、仏になることができる。

「お前もブツダになれば俺とタメになれるぜ！」  
そう阿弥陀様は言うのです。

ほんと、すごいでしょ。  
▼苦とは障害

「ブツダになる」、「目覚める」を「この世の中に苦しみなんでないんだよ」ということに目覚めると書きました。

「苦しみ」||「苦」は、イ

ンドの言葉であるサンスクリット語では「ドウツカ」といひます。

ドウツカは日本語の苦しみとは少し違ひます。

何かをしようとするときに邪魔になるもの、障害が「ドウツカ」です。欲しいものがあるのに手に入らない。こういう仕事に就きたいのになんか出来ない。もっと元気でいたいのに病気になるてしまった。本当はあいつに会いたくないのに今日も会社に行かなければならない。

生きていければ、世の中の「ドウツカ」だらけです。お釈迦様はそれらを分類して四苦八苦と名づけました。

《四苦》基本の四つの苦  
生：生きることの苦しみ  
老：老いていく苦しみ  
病：病気になる苦しみ  
死：死の恐怖や苦しみ

《八苦》  
愛別離苦：愛する人と別れる苦しみ  
怨憎会苦：嫌いな人に会

う苦しむ  
求不得苦：欲しいものが手に入らない苦しむ  
五陰盛苦：心身が思うようにならない苦しむ

波風のない生活がいい、なんていう人もいますが、それではつまらない。苦がないということは喜びもないということ。す。「ドウツカ」をなくす一番簡単な方法は死ぬことです。それはまだ早い。

人は生きている限り「ドウツカ」を感じる存在なのです。

しかも苦をなくす成仏をするには何万回も何億回も生まれ変わるほど長い時間がかかります。

そこで、弘法大師・空海は「即身成仏」を提案しました。

即身成仏と聞くと、ミイラを思い浮かべる人がいますが、あれは即身成仏即身成仏ではありません。

「即身成仏」とは、このまま、すぐに成仏する、すなわち「ドウツカ」がなくなるという意味です。

むろん、人は生きている限り「ドウツカ」が付きまといまふ。空海のいう即身成仏とは、「ドウツカ」がなくなることでなく、「ドウツカ」を大事なことと思ふのです。

▼難行と易行

成仏のための方法は古来、いろいろあります。もつとも伝統的な方法では「八正道」という正しい道に従い、戒律を守り、座禅のような瞑想で精神を常に集中させ、さらには般若と呼ばれる深い智慧を獲得することが必要、たといひます。

これは難しすぎる。ふつうの人には無理です。こういうのを「難行」といひます。

そこで空海は「三密」という方法を提案しました。身、口、意の三つ。仏さまと同じ「身体」をし、仏さまと同じ「言葉」を話し、そして仏さまと同じ「思考」をすれば、「ドウツカ」はなくなるというものです。

ただし、それでも簡単ではないし、それに誰にでも教えてしまうと、いろいろ問題も生じる。そこで、ちゃんと才能も能力もある人にだけ伝えようと決めた。

秘密にしたのです。空海の真言宗を密教というのは秘密の宗教という意味です。

しかし、親鸞聖人はそのように人を選ぶのは嫌いです。

「親鸞は弟子一人もたず候ふ」とおっしゃった。「私には弟子なんていないよ。阿弥陀様の前では私もお前も同じ弟子だよ」とおっしゃった。

「難行」は人を選びます。そういう差別はダメなのです。

ただし、それでも簡単ではないし、それに誰にでも教えてしまうと、いろいろ問題も生じる。そこで、ちゃんと才能も能力もある人にだけ伝えようと決めた。

秘密にしたのです。空海の真言宗を密教というのは秘密の宗教という意味です。

しかし、親鸞聖人はそのように人を選ぶのは嫌いです。

「親鸞は弟子一人もたず候ふ」とおっしゃった。「私には弟子なんていないよ。阿弥陀様の前では私もお前も同じ弟子だよ」とおっしゃった。

「難行」は人を選びます。そういう差別はダメなのです。

そこで、ただ一度でも南無阿弥陀仏と唱えれば、阿弥陀様が救つてくださるといふ「易行」を提案したので。

伝統仏教の難行とはまったく逆の方向です。私は絶対、「易行」派ですが、日本人は「難行」の方がやった気に

なつて好き」といふ人が多いようです。

また、すごい苦行をした人を見ると、尊敬してしまひます。

皆さまはどちらがお好きですか。

私はお坊さんでもないし、学者でもないの、で、「難行」が正しいのか、弘法大師の三密がいいのか、あるいは親鸞聖人の「易行」が正しいのかはわかりません。

親鸞聖人は、易行の教えを法然上人から教わりました。それが正しいかどうかはわからない。

親鸞聖人は、もし法然上人の教えが嘘で地獄に行つたとしてもそれでいいとおっしゃいました。

私にはそんなに強い信心はないのですが、かりに地獄に行つたとして、難行苦行を重ねて後の地獄だつたら「あんなに頑張つたのになぜ？」と思ひそうです。でも、易行の果てに地獄に行つたら「ま、仕方ないか」とあきらめられそうなので、やっぱり易行がいいな。

私にはそんなに強い信心はないのですが、かりに地獄に行つたとして、難行苦行を重ねて後の地獄だつたら「あんなに頑張つたのになぜ？」と思ひそうです。でも、易行の果てに地獄に行つたら「ま、仕方ないか」とあきらめられそうなので、やっぱり易行がいいな。

私にはそんなに強い信心はないのですが、かりに地獄に行つたとして、難行苦行を重ねて後の地獄だつたら「あんなに頑張つたのになぜ？」と思ひそうです。でも、易行の果てに地獄に行つたら「ま、仕方ないか」とあきらめられそうなので、やっぱり易行がいいな。